

「令和8年度 北海道室蘭工業高等学校の部活動に係る活動方針」

1 目的

- ・本校は、学校教育目標等を踏まえ、「道立学校に係る部活動の方針」に則り、「北海道室蘭工業高等学校の部活動に係る活動方針」（以下「本方針」という。）を策定する。
- ・部活動を実施する上では、生徒の学校生活等への影響を考慮した休養日や活動時間を設定し、けがの防止や心身のリフレッシュを図るほか、部活動だけではなく、多様な人々と触れ合い、様々な体験を充実させるなど、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する。
- ・また、教師が、健康でいきいきとやりがいをもって勤務しながら、学校教育の質を高められる環境を構築するためには、教師の部活動指導における負担が過度にならないよう配慮し、部活動が持続可能なものとなるよう、合理的でかつ効率的・効果的に行うものとする。

2 楽山生徒会会則の適切な運用

- ・室蘭工業高等学校楽山生徒会会則の精神に則り活動し、運営は楽山生徒会外局規定、楽山生徒会部・同好会規定を遵守し運用する。設置する部活動は「別表1」に示す。

3 適切な指導・安心安全の確保

(1) 暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の根絶

校長は、以下の点を踏まえ、顧問の教員等や保護者・生徒等への研修等の推進による共通理解の向上を図るとともに、適切な生徒集団づくりや日頃からの生徒への目配り、開かれた環境の整備等により、暴力・暴言・ハラスメント、いじめ等の不適切行為の未然防止を徹底する。

また、事案発生時には迅速な対応及び再発防止の徹底を図ることとする。その際、顧問の教員等任せにせず、学校の設置者や学校組織全体で対応に当たることが特に重要であり、生徒のケアを最優先に、加害生徒への指導等に適切に対応することとし、事実確認等に当たっては、加害者、被害者、その他の関係者から丁寧に聞き取りを行い、事案に応じて、厳正に教員等の処分等を実施する。

- ・部活動においては、顧問の教員等だけに運営・指導を任せるのではなく、学校組織全体で目標や指導方針等を考える必要がある。
- ・目標や指導方針等の設定に当たっては、生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ基礎を育むことや、発達の段階に応じた心身の成長を促すことに十分留意するとともに、勝つことや優秀な成績を収め

ることのみを目指すことのないようにする必要がある。また、そうした点について、生徒や保護者等にも丁寧に説明し、理解を得る。

- ・指導者による暴力・暴言・ハラスメント、いじめ等の不適切行為は、いかなる場合も許されない。特に、盗撮をはじめとした性暴力は、生徒に生涯にわたって回復しがたい心理的外傷や心身に対する重大な影響を与えることを認識し、絶対に行ってはならない。
- ・今後、国において作成する指導の手引き等が公表された場合は、その内容を踏まえた対応を行う（それまでの間は、「運動部活動での指導のガイドライン」（令和7年（2025年）12月文部科学省作成）に沿った指導を行う）。特に同ガイドラインにおいて示された「肉体的、精神的な負荷や厳しい指導」と「体罰等の許されない指導」の区別が、顧問の教員等はもとより、保護者・生徒等にも十分に理解されるようにする。
- ・指導者には、生徒同士等の暴力やいじめ等の不適切行為を防止する役割が求められていることから、適切な集団づくりや日頃からの生徒への目配りなどにも留意する。
- ・近年、スマートフォン・SNS等の普及に伴い、生徒がトラブルや犯罪に加害者として関わってしまう可能性も大きくなっていることから、人を傷つける書き込みは、人権侵害であり犯罪になることもあること、他人に損害を与えれば損害賠償責任を負うこともあることにも留意する。
- ・暴力・暴言・ハラスメント、いじめ等の不適切行為は、閉鎖的な環境・人間関係の下で発生しやすいことから、複数の指導人材等が関わるなど開かれた活動環境の整備や、指導者・生徒・保護者等によるコミュニケーションの活性化等を通じた風通しの良い組織作りなどに留意する。

4 合理的でかつ効率的・効果的な活動推進のための取組

- ・校長及び部活動顧問は、部活動の実施に当たっては、生徒の体調変化、気象条件や気温、湿度などの環境の変化に十分に注意するとともに、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む。）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。校長は、これらの取組に当たって、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）等も踏まえるよう留意する。

(1) 運動部活動における適切な指導

- ・校長は、運動部顧問に対し、次のことを徹底するよう指導する。また、運動部顧問は、校長の指導を踏まえて生徒に対する指導を適切に行う。
 - スポーツ医・科学の見地からは、トレーニング効果を得るために休養を適切に取る必要があること。
 - 過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解すること。

- 生徒の体力の向上や、生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図ること。
- 生徒がバーンアウトすることなく、技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行うこと。
- 専門的知見を有する保健体育担当の教師や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行うこと。
- 本校が所在する地域または活動を行う予定の地域において暑さ指数（WBGT）が 31℃を超えた場合は、原則として活動を中止する。

(2) 文化部活動における適切な指導

- ・ 校長は、文化部顧問に対し、次のことを徹底するよう指導する。また、文化部顧問は、校長の指導を踏まえて生徒に対する指導を適切に行う。
 - 生徒のバランスの取れた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取る必要があること。
 - 過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解すること。
 - 生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等の活動に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図ること。
 - 生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会、コンクール、コンテスト、発表会等でのそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取り、短時間で効果が得られる指導を行うこと。
 - 専門的知見を有する教師や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行うこと。
 - 本校が所在する地域または活動を行う予定の地域において暑さ指数（WBGT）が 31℃を超えた場合は、原則として活動を中止する。

(3) 部活動用指導手引の活用

- ・ 校長は、部活動顧問に対し、関係団体等が作成した指導手引を活用するよう指導し、部活動顧問は、当該指導手引を活用するなどして、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行う。

5 適切な休養日等の設定

- ・「道立学校に係る部活動の方針」（教環第 830 号 平成 31 年 2 月 28 日通知）に則り、休養日を設定する。
- ・年間の活動計画、毎月の活動計画及び活動実績の作成・提出
- ・各部の責任者(以下「部活動顧問」という。)は、年間の活動計画(活動日、休養日及び参加予定大会日程等)並びに毎月の活動計画及び活動実績(活動日時・場所、休養日及び大会参加日等)を作成し、校長に提出する。
- ・部活動顧問は、毎月の活動計画にある活動の開始及び終了時間を遵守するとともに、計画を変更する場合は、あらかじめ校長の承認を得る。
- ・校長は、上記の各部活動の年間の活動計画、毎月の活動計画及び活動実績等をもとに、教師や生徒の負担が過度とならないよう、持続可能な運営体制が整えられているか等の観点から、必要に応じて指導・是正を行う。
- ・校長は、部活動顧問に対し、当該顧問が年間及び毎月の活動計画、活動全般及び大会出場等に要する経費等に係る資料(部活動通信等)を配布するなどして、「活動方針」とあわせて、保護者・生徒の理解を得るよう指導するとともに、部活動顧問や生徒・保護者の負担が過度とならないよう指導する。
- ・1日の活動時間は、平日は2時間程度、学校の休業日は3時間程度とし、週あたりの活動は11時間程度の範囲内とする。その中で、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。
ただし、弾力的に休養日等を設定する際には、校長からの申出があった部活動が、学校の設置者が別に定める要件に当てはまる場合に、下記の休養日及び活動時間の弾力的な設定の範囲内での活動を行うことができるものとし、学校全体として、持続可能な部活動の運営体制の構築を図る。
- ・休業日の弾力的な設定については、学期中は、週1日以上、休養日を設けるほか、月1日以上、休養日を設ける。また、学校閉庁日を設定する場合はその期間を休養日とする。長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。
- ・活動時間の弾力的な設定については、1日の活動時間は、長くとも平日では3時間程度、休日は4時間程度とし、週あたりの活動時間は、長くとも16時間程度の範囲内とする。

6 「部活動に係る相談・要望の窓口」の設置

- ・校内に「部活動に係る相談・要望の窓口」を設置する。相談、要望は、郵便、ファクシミリ又は電子メールのいずれかにより下記の連絡先あてに提出することとする。
- ・連絡先：
メール murokoujimu@hokkaido-c.ed.jp
F A X 0143-44-5711
郵 送 〒050-0073 室蘭市宮の森町3丁目1-1

北海道室蘭工業高等学校

・担 当： 教頭とする。

別表 1

楽山生徒会部局・同好会一覧

	部局名		
外局	図書局	新聞局	放送局
	吹奏楽局	ボランティア局	
運動部	硬式野球部	サッカー部	陸上部
	ソフトテニス部	バドミントン部	バレーボール部
	バスケットボール部	バドミントン部	卓球部
	柔道部		
同好会	工業技術研究同好会		